

## (エ) 米穀販売事業者における販売数量及び販売価格の動向（速報）

- 米穀販売事業者における令和6年10月の販売数量は、対前年同月比で小売事業者向けが85%、中食・外食事業者等向けが100%で、全体としては92%となっている。
- なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じているが、令和元年10月の販売数量と比較すると93%となる。
- 前年同月を基準にした令和6年10月の販売価格の値動きは、小売事業者向け157.0、中食・外食事業者等向け121.7。

### 1 販売数量の動向（前年同月比）

	5年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年1月～12月計
小売事業者向け	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%	103%	105%	105%	104%	102%
(※令和元年との比較)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)	(100%)	(102%)	(104%)	(108%)	(103%)
中食・外食事業者等向け	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%	105%	105%	105%	102%	105%
(※令和元年との比較)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)	(102%)	(100%)	(100%)	(98%)	(97%)
販売数量計	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%	104%	105%	105%	103%	103%
(※令和元年との比較)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)	(101%)	(101%)	(102%)	(103%)	(101%)

	6年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	6年1月～12月計
小売事業者向け	106%	108%	107%	108%	106%	114%	104%	100%	86%	85%			
(※令和元年との比較)	(110%)	(111%)	(108%)	(109%)	(114%)	(116%)	(104%)	(107%)	(87%)	(86%)			
中食・外食事業者等向け	103%	106%	100%	99%	103%	98%	99%	100%	97%	100%			
(※令和元年との比較)	(96%)	(100%)	(95%)	(94%)	(102%)	(97%)	(97%)	(97%)	(98%)	(100%)			
販売数量計	105%	107%	104%	104%	105%	107%	102%	100%	91%	92%			
(※令和元年との比較)	(103%)	(106%)	(102%)	(102%)	(108%)	(107%)	(100%)	(102%)	(92%)	(93%)			

※令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年（4月までは平成31年）の同月との比較をした値を記載。

### 2 販売価格の動向（前年同月の価格を基準にした値動き）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

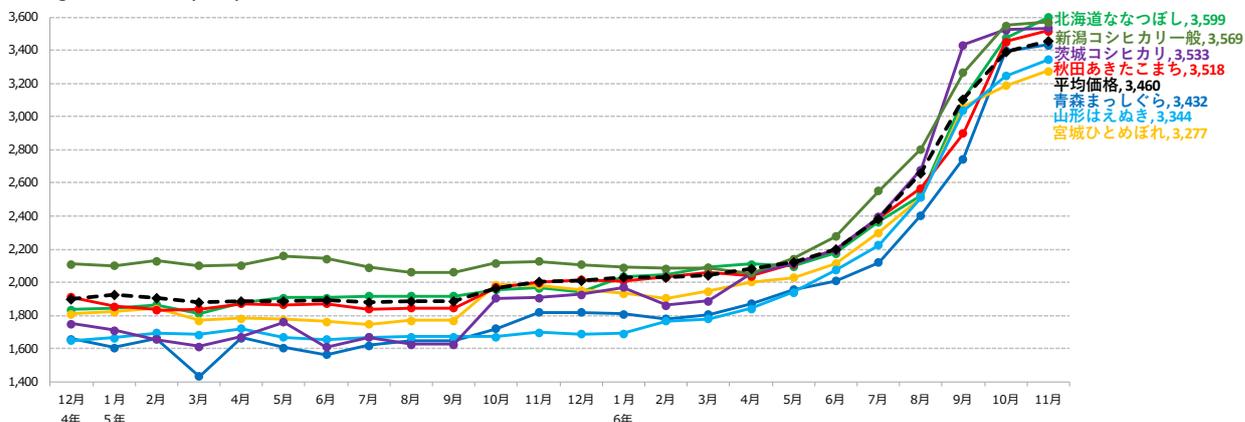
注2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

注3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。

## (オ) 小売価格・販売数量等の推移 (POSデータ)

- 令和6年11月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月差+65円(+1.9%)、対前年同月差+1,457円(+72.7%)の3,460円。

円/5kg 袋販売時換算(税込)



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

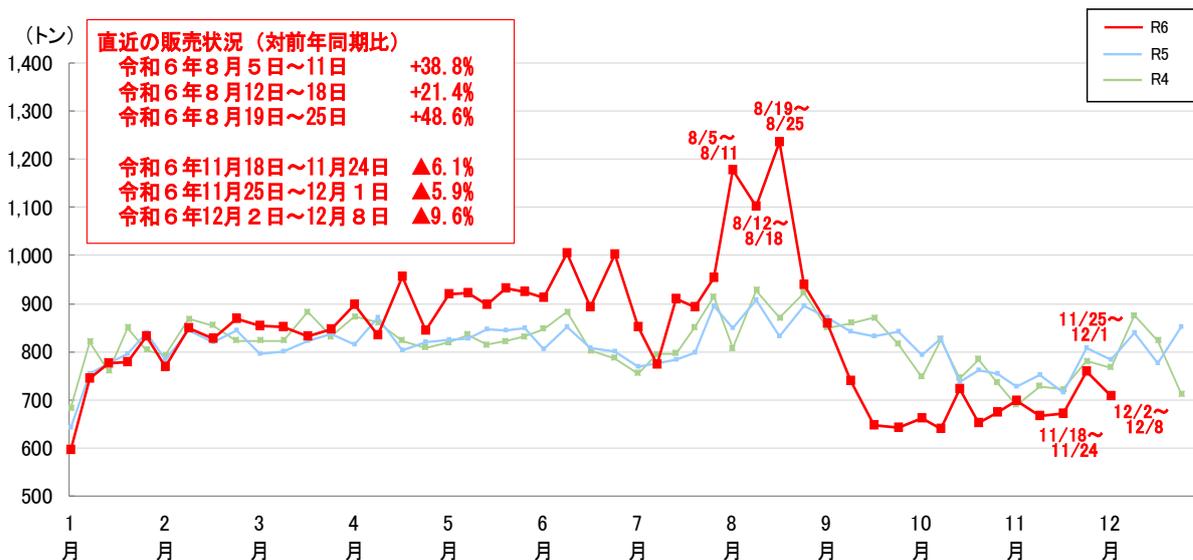
注2：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

注3：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注4：全POS取引平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注5：価格に含む消費税は8%である。

- 令和6年4月以降の販売量は、令和4年及び5年と比較して堅調に推移。
- 令和6年8月は南海トラフ地震臨時情報(8月8日発表)、その後の地震、台風等による買い込み需要が発生したこと等により、8月5日以降伸びが著しい週が3週連続。9月2日以降の週は前年を下回る水準で推移し、12月2日の週は対前年同期▲10%。



# うるち精米の主な銘柄の月別価格・販売数量

単位：円/5kg 袋販売時換算（消費税込み）、トン

	販 売 価 格													販売数量			
	5年 11月	12月	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	前月差	前年 同月差	6年 11月	5年12月 ～6年11月
北海道 ななつぼし	1,966	1,940	2,034	2,044	2,090	2,111	2,098	2,175	2,365	2,525	3,107	3,477	3,599	+122	+1,633	272	3,957
北海道 ゆめびりか	2,357	2,408	2,446	2,469	2,502	2,538	2,524	2,476	2,618	2,853	3,555	3,766	3,865	+99	+1,508	184	2,439
北海道 ふっくりんこ	2,242	2,217	2,277	2,329	2,355	2,367	2,374	2,389	2,489	2,709	2,829	3,635	3,677	+42	+1,435	26	327
北海道 きらら397	2,057	2,003	2,056	2,017	2,075	2,152	2,178	2,260	2,422	2,586	2,679	3,283	3,625	+342	+1,568	1	103
北海道 きたくりん	1,961	1,965	2,002	2,035	1,919	1,933	2,022	2,070	2,252	2,511	2,577	3,264	3,409	+145	+1,448	11	130
青森 青天の霹靂	2,283	2,263	2,275	2,276	2,287	2,288	2,193	2,289	2,446	2,641	2,794	3,461	3,673	+212	+1,390	19	330
青森 まっしら	1,820	1,818	1,810	1,782	1,808	1,871	1,956	2,008	2,119	2,407	2,745	3,398	3,432	+34	+1,612	19	365
青森 つがるロマン	2,021	2,005	1,966	1,992	1,972	2,005	2,002	2,052	2,115	2,191	3,030	3,073	2,487	▲586	+466	0	97
岩手 ひとめぼれ	2,035	2,055	2,063	2,060	2,022	2,021	2,045	2,097	2,221	2,401	2,615	3,294	3,297	+3	+1,262	54	906
岩手 銀河のしずく	2,036	2,057	2,057	2,056	2,051	2,056	2,092	2,073	2,184	2,367	2,696	3,241	3,261	+20	+1,225	53	717
宮城 ひとめぼれ	1,983	1,954	1,934	1,903	1,948	2,002	2,030	2,114	2,301	2,514	3,060	3,188	3,277	+89	+1,294	108	1,626
宮城 つや姫	2,076	2,084	2,079	2,068	2,080	2,143	2,122	2,203	2,320	2,566	2,751	3,579	3,438	▲141	+1,362	18	271
宮城 だて正夢	2,204	2,239	2,232	2,222	2,222	2,237	2,217	2,235	2,426	2,678	2,696	3,435	3,368	▲67	+1,164	9	143
秋田 あきたこまち	2,000	2,017	2,011	2,031	2,058	2,039	2,112	2,195	2,385	2,570	2,899	3,453	3,518	+65	+1,518	142	2,092
山形 つや姫	2,344	2,380	2,371	2,425	2,408	2,428	2,405	2,492	2,654	2,844	2,979	3,731	3,736	+5	+1,392	69	948
山形 はえぬき	1,698	1,689	1,691	1,767	1,780	1,843	1,941	2,076	2,224	2,513	3,037	3,246	3,344	+98	+1,646	91	817
山形 雪若丸	2,048	2,007	1,989	2,005	2,039	2,102	2,093	2,215	2,186	2,505	3,190	3,352	3,366	+14	+1,318	15	260
茨城 コシヒカリ	1,906	1,926	1,970	1,862	1,887	2,056	2,112	2,195	2,394	2,681	3,431	3,523	3,533	+10	+1,627	58	734
茨城 あきたこまち	1,820	1,816	1,813	1,858	1,716	1,897	1,970	2,008	2,284	3,134	3,315	3,327	3,369	+142	+1,649	6	394
栃木 コシヒカリ	1,993	1,989	1,715	1,993	1,989	2,004	2,085	2,152	2,284	2,502	3,199	3,521	3,470	▲151	+1,377	48	562
栃木 とちぎの星	1,942	1,631	1,861	1,980	1,653	1,900	1,809	1,918	2,115	2,406	2,698	3,149	3,114	▲35	+1,172	22	202
千葉 ふさおとめ	1,863	1,905	1,949	1,943	1,892	2,084	2,149	2,279	2,346	2,963	3,237	3,399	3,356	▲43	+1,493	38	498
千葉 コシヒカリ	1,989	1,992	2,054	2,034	2,047	2,137	2,235	2,349	2,547	2,920	3,315	3,438	3,527	+89	+1,538	22	485
千葉 ふさこがね	1,728	1,730	1,750	1,744	1,714	1,844	1,896	2,178	2,337	3,073	3,199	3,145	3,106	▲39	+1,378	21	278
山梨 コシヒカリ	2,246	2,290	2,286	2,266	2,291	2,334	2,354	2,393	2,559	2,780	2,987	3,554	3,636	+82	+1,390	13	202
長野 コシヒカリ	1,934	1,814	1,856	1,809	1,817	1,811	1,925	2,068	2,245	2,488	2,871	3,174	3,134	▲40	+1,200	49	637
新潟 コシヒカリ 一般	2,127	2,108	2,093	2,085	2,087	2,054	2,144	2,279	2,551	2,806	3,266	3,550	3,569	+19	+1,442	203	3,006
新潟 コシヒカリ 魚沼	2,689	2,593	2,582	2,667	2,727	2,653	2,644	2,756	2,885	3,095	3,422	3,915	3,779	▲136	+1,090	51	629
新潟 コシヒカリ 佐渡	2,182	2,225	2,232	2,234	2,164	2,224	2,270	2,344	2,501	2,872	2,840	3,568	3,627	+59	+1,445	6	148
新潟 みずほの輝き	1,982	1,987	1,996	1,992	2,051	2,101	2,123	2,218	2,351	2,424	2,748	3,387	3,390	+3	+1,408	61	621
新潟 こしいぶき	1,953	1,913	1,867	1,759	1,880	2,032	2,130	2,112	2,244	2,549	3,200	3,202	3,370	+168	+1,417	35	469
新潟 新之助	2,455	2,380	2,380	2,448	2,692	2,671	2,637	2,773	2,743	3,112	4,130	4,832	4,254	▲578	+1,799	25	373
富山 コシヒカリ	1,977	2,040	2,039	2,060	2,027	2,088	2,076	2,182	2,359	2,546	3,089	3,438	3,400	▲38	+1,423	103	1,356
富山 てんたかく	1,972	1,850	1,969	1,895	2,000	1,996	2,053	2,154	2,403	2,703	3,263	3,339	3,463	+124	+1,491	18	188
石川 コシヒカリ	2,051	2,032	2,018	1,997	2,000	2,028	2,059	2,109	2,268	2,497	2,973	2,990	3,012	+22	+961	56	746
石川 ひやくまん穀	2,108	2,102	2,103	2,113	2,115	2,113	2,124	2,254	2,273	2,289	3,067	3,044	3,033	▲11	+925	22	295
石川 ゆめみづぼ	1,840	1,945	1,836	1,858	1,836	1,867	1,874	1,908	2,113	2,576	2,905	2,835	2,676	▲159	+836	22	275
福井 ハナエチゼン	1,308	1,280	1,543	1,455	1,698	1,831	2,033	2,090	2,275	3,007	3,216	3,309	3,291	▲18	+1,983	11	220
福井 いちほまれ	2,265	2,179	2,273	2,285	2,291	2,302	2,300	2,331	2,502	2,441	3,162	3,691	3,799	+108	+1,534	11	197
福井 コシヒカリ	2,070	2,077	2,056	2,108	2,113	2,049	2,014	2,155	2,331	2,541	3,549	3,472	3,400	▲72	+1,330	14	170
愛知 コシヒカリ	2,121	2,096	2,096	2,008	2,120	2,210	2,258	2,337	2,583	3,057	3,510	3,465	3,604	+139	+1,483	10	201
三重 コシヒカリ 一般	1,861	1,891	1,874	1,977	1,955	2,015	2,063	2,119	2,264	2,987	3,207	3,327	3,475	+148	+1,614	27	452
三重 コシヒカリ 伊賀	2,082	2,117	2,131	2,107	2,120	2,104	2,178	2,220	2,356	2,481	3,214	3,416	3,523	+107	+1,441	18	270
滋賀 みずかがみ	1,949	2,015	2,028	2,032	2,267	2,378	2,414	2,432	2,562	2,691	3,316	3,348	3,649	+301	+1,700	5	101
徳島 あきさかり	1,781	1,790	1,822	1,789	1,979	2,014	2,025	2,061	2,106	2,054	2,735	2,968	3,299	+331	+1,518	7	75
愛媛 コシヒカリ	2,063	2,083	2,079	2,085	2,121	2,121	2,144	2,172	2,217	2,452	2,880	2,915	3,260	+345	+1,197	15	172
福岡 元気づくし	2,029	2,011	2,095	2,094	2,045	2,071	2,131	2,283	2,520	2,693	3,052	3,587	3,599	+12	+1,570	28	376
福岡 夢つくし	1,915	2,001	2,048	1,965	2,061	2,119	2,157	2,230	2,421	2,607	3,438	3,455	3,467	+12	+1,552	29	295
佐賀 夢しずく	1,893	1,918	1,941	1,916	1,895	1,946	1,979	2,097	2,397	2,591	2,792	3,295	3,351	+56	+1,458	20	225
佐賀 さがびより	1,904	1,975	1,961	1,973	1,949	2,039	1,999	2,116	2,420	2,570	2,938	3,054	3,506	+452	+1,602	17	353
大分 ヒノヒカリ	1,901	1,947	1,932	1,906	1,919	1,929	1,984	2,060	2,273	2,450	2,475	3,417	3,590	+173	+1,689	9	158
宮崎 ヒノヒカリ	1,795	1,770	1,777	1,800	1,811	1,845	1,925	2,050	2,391	2,786	2,924	3,200	3,349	+149	+1,554	13	232
宮崎 コシヒカリ	1,612	1,564	1,432	1,265	1,299	1,360	1,386	1,397	2,595	2,847	2,897	3,211	2,264	▲947	+652	2	231
全POS取引平均価格	2,003	2,013	2,030	2,029	2,042	2,083	2,122	2,201	2,383	2,656	3,105	3,395	3,460	+65	+1,457		
全POS取引数量(トン)	3,096	3,691	3,161	3,372	3,897	3,786	3,951	4,289	3,804	4,959	3,113	2,907	2,973	+66	▲123	2,973	43,901

(参考：ドラッグストア)

全POS取引平均価格	1,813	1,836	1,847	1,836	1,875	1,921	1,961	1,996	2,152	2,480	2,829	3,135	3,273	+138	+1,460
------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	--------

資料：(株)KSP-SP が提供する P O S データに基づいて農林水産省が作成

注 1：(株)KSP-SP が提供する P O S データは、全国約 1,000 店舗のスーパー、生協等（ドラッグストアは約 400 店舗）から購入したデータに基づくものである。

注 2： POS データは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

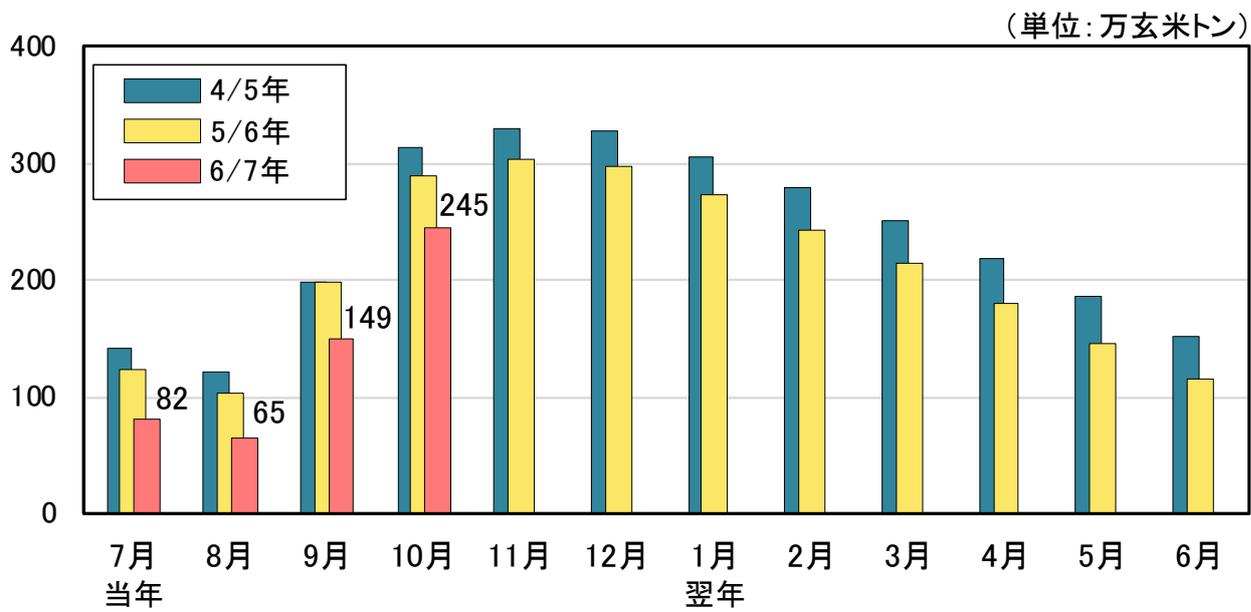
注 3： POS データの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

注 4： 全 POS 取引平均価格は、POS データで把握できる 全ての精米の販売について 5 kg 袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

注 5： 価格に含む消費税は 8% である。

## オ 米の民間在庫情報

- 令和6年10月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、対前年同月差▲45万トンの245万トンとなっている。また、流通段階別で見ると出荷段階で対前年同月差▲48万トンの187万トン、販売段階で+4万トンの57万トンとなっている。



## 【令和6年10月末民間在庫量のポイント】

- 毎月公表している民間在庫量は、①500トン以上の集荷業者、②4,000トン以上の卸売業者が対象。およそ民間の流通在庫全体の75%をカバー(下記参考参照)。
- 令和6年10月末の民間在庫量は、前月公表値から修正が生じた9月末の対前年差▲51万トンから▲45万トンと減少幅は縮小したものの、10月末在庫としては近年では最も低い水準の245万トンとなった。
- これについては、令和6年産の生産量(10月25日現在)が679万トンと前年産より18万トン多い中で、出荷段階で対前年差▲48万トン、販売段階で同+4万トンとなっていることを踏まえれば、報告対象となっている集荷業者の集荷が前年に比べ減少していることが主な要因と考えられる。

※ 在庫率は上記対象事業者の在庫量を全体の需要で割ったもの。

### 10月末民間在庫量・在庫率



※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

### ○ 出荷・販売段階別の民間在庫量 (単位: 万トン)

	6年9月末	6年10月末
出荷段階	113	187
対前年差	▲49	▲48
販売段階	36	57
対前年差	▲2	4
合計	149	245
対前年差	▲51	▲45

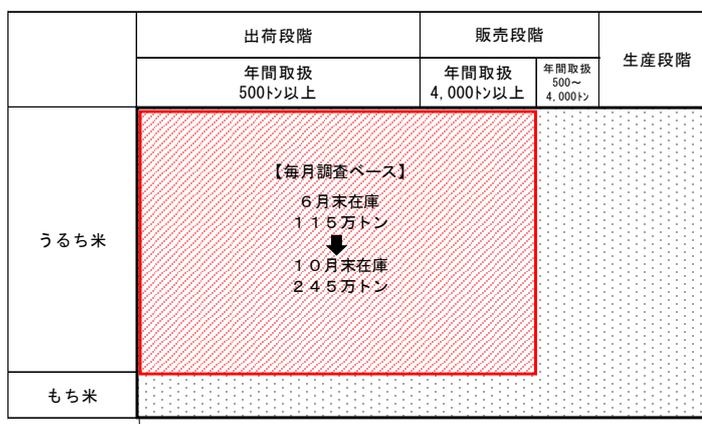
※出荷段階は玄米仕入数量が500トン以上の集荷業者等  
販売段階は玄米仕入数量が4,000トン以上の卸売業者等

### ○ 集荷業者の集荷数量

(単位: 万トン)

	集荷数量	前年比
6年10月末	159.6	91%
5年10月末	174.9	

### (参考) 毎月公表している民間在庫量の調査対象の範囲



## 【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)】

### 【出荷＋販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
元年産米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
2年産米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162
1年古米(元年産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
5年産米	1	14	131	232	254	260	245	221	195	165	133	105
1年古米(4年産)	106	78	56	46	36	27	21	15	13	10	7	5
6/7年	82	65	149	245								
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45								
6年産米	1	13	112	214								
1年古米(5年産)	74	46	31	24								

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。  
 4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～6年6月である。  
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

## 【出荷段階】

(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30年産米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/2年	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109
対前年差	▲2	▲8	+8	+2	+5	+13	+9	+4	+1	+7	+11	+8
元年産米	0	7	99	222	246	254	238	214	181	155	136	108
1年古米(30年産)	73	47	28	14	9	6	4	3	2	2	1	1
2/3年	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132
対前年差	+10	+15	+23	+27	+27	+22	+26	+27	+33	+29	+24	+23
2年産米	0	9	108	236	263	268	258	237	211	182	158	129
1年古米(元年産)	82	60	42	28	20	14	10	7	5	4	3	3
3/4年	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139
対前年差	+22	+20	+27	+12	+13	+12	+10	+11	+9	+10	+7	+7
3年産米	0	8	115	227	255	261	249	231	206	179	154	126
1年古米(2年産)	103	80	61	47	40	33	28	24	19	16	14	13
4/5年	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
対前年差	+10	+8	▲12	▲15	▲21	▲20	▲20	▲20	▲22	▲20	▲20	▲18
4年産米	0	9	97	208	231	239	228	210	185	160	136	110
1年古米(3年産)	103	78	58	44	36	29	24	19	14	11	9	7
5/6年	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
5年産米	0	10	113	200	220	225	212	190	163	134	108	81
1年古米(4年産)	86	61	42	30	24	17	13	10	6	4	3	2
6/7年	58	44	113	187								
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲48								
6年産米	0	9	90	172								
1年古米(5年産)	55	33	21	13								

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

## 【販売段階】

(単位: 万玄米トン)

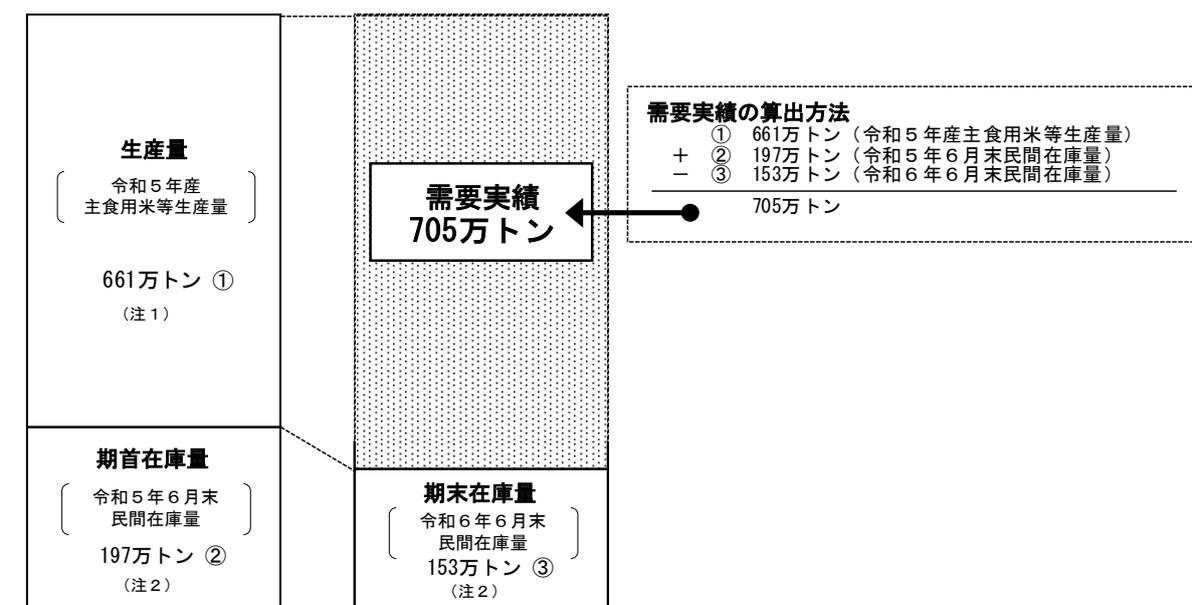
	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	30
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	▲1
30年産米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1年古米(29年産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/2年	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45
対前年差	±0	▲1	+2	+3	+4	+4	+4	+4	+5	+4	+5	+14
元年産米	0	3	16	32	37	40	38	36	40	38	33	38
1年古米(30年産)	22	18	15	20	15	10	8	6	5	4	3	2
2/3年	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41
対前年差	+10	+7	+6	+3	+2	+1	+1	+1	▲2	▲2	▲3	▲4
2年産米	0	3	15	30	34	36	33	32	34	33	27	33
1年古米(元年産)	30	24	19	23	20	16	13	10	9	7	6	4
3/4年	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32
対前年差	▲3	▲2	▲3	▲5	▲7	▲5	▲6	▲4	▲3	▲2	▲2	▲8
3年産米	0	3	14	26	30	32	29	28	30	30	25	24
1年古米(2年産)	25	20	16	20	16	14	11	9	9	7	5	4
4/5年	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	+1	+1	+2	+2	+1	±0
4年産米	0	3	15	28	32	34	31	31	32	31	26	24
1年古米(3年産)	20	17	13	15	13	11	8	7	8	7	5	4
5/6年	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
5年産米	0	4	18	32	34	35	32	31	32	31	26	24
1年古米(4年産)	20	17	14	16	12	10	8	6	6	6	4	3
6/7年	25	21	36	57								
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4								
6年産米	0	4	23	41								
1年古米(5年産)	19	13	9	11								

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

## カ 主食用米等の需給見通し（米の基本指針（令和6年10月30日））

### （1）令和5/6年の需要実績（確定値）

- 令和5/6年（令和5年7月から令和6年6月までの1年間）の需要実績（確定値）は、前年（691万トン）から14万トン増加し、705万トンとなります。
- 令和6年6月末民間在庫量は、前年から44万トン減少し153万トンとなります。



注1: 主食用米等生産量は、令和5年産水稻の収穫量(主食用)（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）である。

注2: 6月末在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に水稻を作付けした生産者の在庫量推計値を加えたものである。

注3: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

### （参考）民間流通における6月末在庫量等の推移

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年 (速報値)
民間在庫	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199	190	189	200	218	218	197	153
需要量との比率	18.8%	25.8%	26.5%	22.0%	22.1%	28.6%	28.0%	28.9%	26.6%	26.4%	25.7%	25.7%	28.0%	31.0%	31.0%	28.4%	21.7%

その他詳細な内容は、下記URL「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」をご覧ください。  
 URL: [https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku\\_sisin/index.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/beikoku_sisin/index.html)

## (2) 令和6/7年及び令和7/8年の需要見通し（推計値）

- 令和6/7年及び令和7/8年の需要見通しについて、平成30年11月の基本指針において採用した下記手法により算出すると、令和6/7年は674万トン、令和7/8年は663万トンとなります。

### 【需要見通しの算出方法】

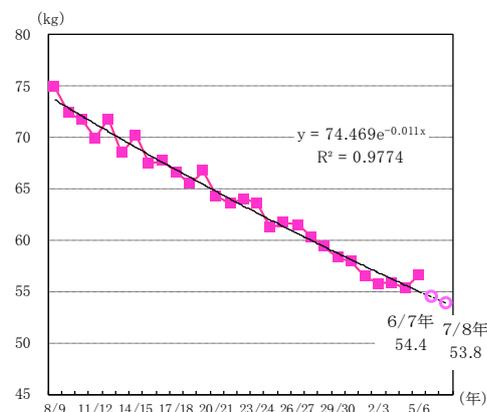
- 平成8/9年から令和5/6年までの需要実績をそれぞれ当該年の人口で除し、各年の1人当たり消費量を算出
- ①で算出した値を用いたトレンド（回帰式）で、令和6/7年（令和6年7月から令和7年6月まで）及び令和7/8年（令和7年7月から令和8年6月まで）の1人当たり消費量（推計値）を算出
- ②で算出した値に令和6年及び令和7年の人口（推計値）を乗じて算出

- ① 平成8/9年から令和5/6年までの1人当たり消費量を算出      ② 令和6/7年及び令和7/8年の1人当たり消費量（推計値）を算出

年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり消費量 ①/②
	万トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	127,042	59.4
29/30	739.6	126,919	58.3
30/元	734.6	126,749	58.0
元/2	714.4	126,555	56.4
2/3	704.0	126,146	55.8
3/4	701.5	125,502	55.9
4/5	691.1	124,947	55.3
5/6	704.9	124,352	56.7

注：人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

(単位:kg)		
年	x	1人当たり消費量(y)
8/9	1	75.0
9/10	2	72.4
10/11	3	71.7
11/12	4	69.9
12/13	5	71.8
13/14	6	68.5
14/15	7	70.2
15/16	8	67.5
16/17	9	67.7
17/18	10	66.7
18/19	11	65.5
19/20	12	66.7
20/21	13	64.3
21/22	14	63.6
22/23	15	64.0
23/24	16	63.6
24/25	17	61.2
25/26	18	61.7
26/27	19	61.5
27/28	20	60.3
28/29	21	59.4
29/30	22	58.3
30/元	23	58.0
元/2	24	56.4
2/3	25	55.8
3/4	26	55.9
4/5	27	55.3
5/6	28	56.7
6/7	29	54.4 (推計値)
7/8	30	53.8 (推計値)



- ③ 令和6/7年及び令和7/8年の1人当たり消費量（推計値）に令和6年及び令和7年の人口（推計値）を乗じて需要見通しを算出

	6/7年	7/8年
1人当たり消費量(推計値) ①	54.4kg	53.8kg
	6年	7年
人口(推計値) ②	123,780千人	123,198千人
	6/7年	7/8年
需要見通し ①×②	673.7万トン	663.4万トン

注1：人口（推計値）は、令和6年においては「人口推計（総務省、令和6年9月公表）」の総人口（令和6年9月1日現在（概算値）。以下「令和6年9月現在人口」という。）、令和7年においては令和6年9月現在人口に「日本の将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、令和5年4月公表）」の令和6年10月1日から令和7年10月1日までの総人口（出生中位・死亡中位推計）の減少率を乗じて算出した値。

注2：図中の需要見通しは、1人当たり消費量（推計値）の実数に、人口（推計値）の実数を乗じて算出した値のため、図中の1人当たり消費量（推計値）（小数点第2位を四捨五入）に人口（推計値）（小数点第1位を四捨五入）を乗じて算出した値とは一致しない。

### (3) 令和6/7年及び令和7/8年の需給見通し

- 令和6/7年の需給見通しについては、需要量を前記で算出した674万トンと設定。この結果、令和7年6月末民間在庫量は162万トンと見通されます。
- 令和7/8年の需給見通しについては、需要量を前記で算出した663万トンと設定。令和7年産主食用米等の生産量の見通しは、令和6年産の生産実績（令和6年9月25日現在の令和6年産水稻の予想収穫量（主食用））と同水準の683万トンと設定。この結果、令和8年6月末民間在庫量は182万トンと見通されます。

#### 令和6/7年及び令和7/8年の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

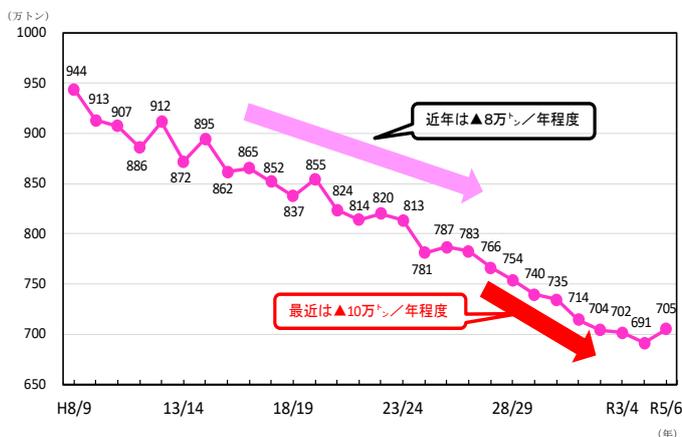
令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	A	153
	令和6年産主食用米等生産量	B	683
	令和6/7年主食用米等供給量計	$C = A + B$	836
	令和6/7年主食用米等需要量	D	674
	令和7年6月末民間在庫量	$E = C - D$	162

令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量	E	162
	令和7年産主食用米等生産量	F	683
	令和7/8年主食用米等供給量計	$G = E + F$	846
	令和7/8年主食用米等需要量	H	663
	令和8年6月末民間在庫量	$I = G - H$	182

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。

注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

#### (参考) 主食用米の需要量の推移



#### (参考) 相対取引価格と民間在庫量



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和6年産は6年10月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

## キ 令和6年産水陸稲の収穫量

### — 全国の10a当たり収量は540kgの見込み —

#### 【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稲の作付面積（子実用）は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha増加）となった。うち主食用作付面積は125万9,000ha（同1万7,000ha増加）となった。
- 2 水稲の全国の10a当たり収量は540kgと見込まれる。  
これは、全国的にはおおむね天候に恵まれたためである。なお、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足、8月以降の記録的な高温等の影響により収量が低下した。
- 3 以上の結果、水稲の収穫量（子実用）は734万5,000t（前年産に比べ18万t増加）と見込まれ、主食用の収穫量は679万2,000t（同18万2,000t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101と見込まれる。
- 5 令和6年産陸稲の作付面積（子実用）は320haで、10a当たり収量は256kgとなり、収穫量（子実用）は820tとなった。

図1 水稲の全国農業地域別10a当たり収量（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 水稲の作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積であり、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 陸稲の作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含まない面積である。
- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 沖縄県については、一部収穫を終えていないため、収穫の状況によっては今後変動することがある。

◎ 累年データ

水陸稲の年次別推移（全国）

年 産	水 陸 稲 計		水 稲					作況指数
	作付面積 (子実用)	収穫量 (子実用)	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	t	ha	kg	t	ha	t	
平成16年産	1,701,000	8,730,000	1,697,000	514	8,721,000	...	...	98
17	1,706,000	9,074,000	1,702,000	532	9,062,000	...	...	101
18	1,688,000	8,556,000	1,684,000	507	8,546,000	...	...	96
19	1,673,000	8,714,000	1,669,000	522	8,705,000	...	...	99
20	1,627,000	8,823,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,624,000	8,474,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,628,000	8,483,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,576,000	8,402,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,581,000	8,523,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,599,000	8,607,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,575,000	8,439,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,506,000	7,989,000	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,479,000	8,044,000	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,466,000	7,824,000	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,470,000	7,782,000	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,470,000	7,764,000	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,462,000	7,765,000	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3	1,404,000	7,564,000	1,403,000	539	7,563,000	1,303,000	7,007,000	101
4	1,355,000	7,270,000	1,355,000	536	7,269,000	1,251,000	6,701,000	100
5	1,345,000	7,166,000	1,344,000	533	7,165,000	1,242,000	6,610,000	101
6 (概数値)	1,359,000	7,346,000	1,359,000	540	7,345,000	1,259,000	6,792,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、以下により算出している。

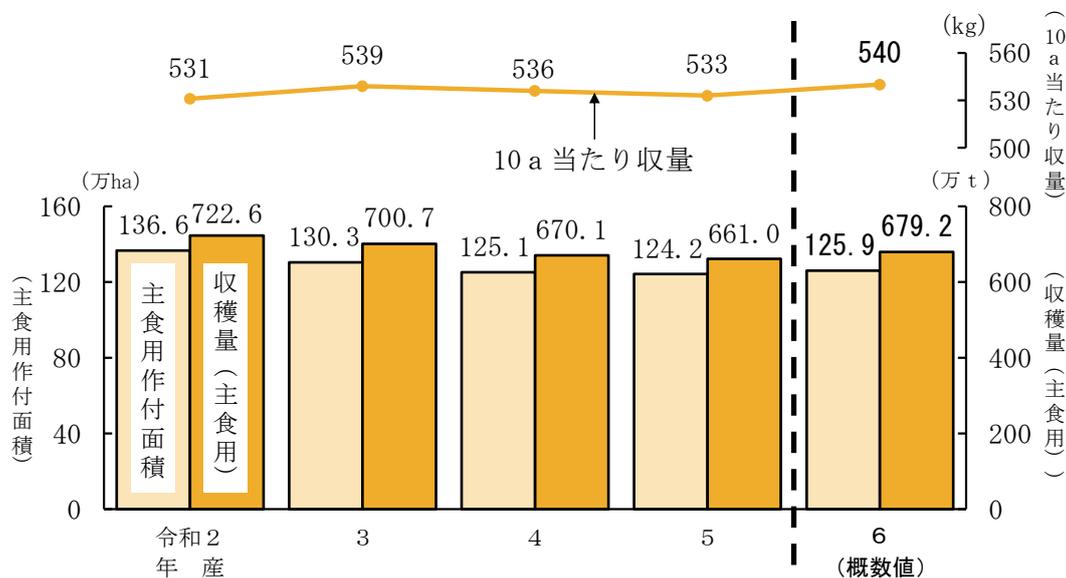
平成26年産以前 : 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出。

平成27年産から令和元年産まで : 全国農業地域ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅で選別された玄米を基に算出。

令和2年産以降 : 都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出。

5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

水稲の主食用作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（主食用）の推移（全国）



注：10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mm のふるい目幅で選別された玄米の重量である。

## 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（全国）

年 産	計	単位：%					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和元年産	100.0	0.7	1.4	1.9	2.8	15.3	77.9
2	100.0	0.7	1.4	1.9	2.9	14.4	78.7
3	100.0	0.8	1.4	1.8	2.8	14.7	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	14.9	77.9
5	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
6（概数値）	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
平均 値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.7	13.9	79.6
対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.0	2.5

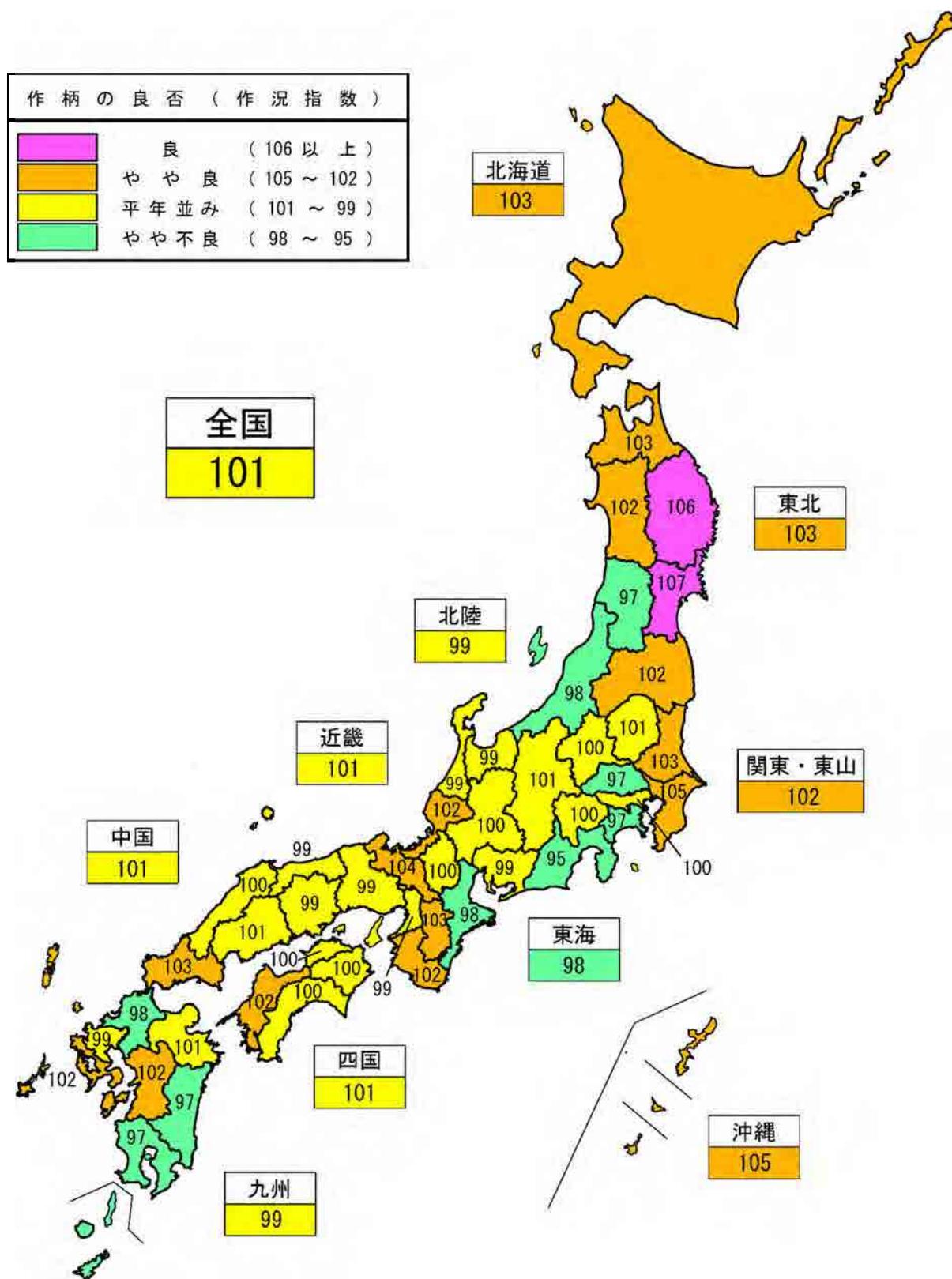
注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。  
2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 2 ふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（全国）

年 産	単位	単位：%						
		1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
令和元年産	10a 当たり収量	kg	528	524	517	507	492	411
	収穫量（子実用）	t	7,762,000	7,708,000	7,599,000	7,452,000	7,234,000	6,047,000
2	10a 当たり収量	kg	531	527	520	510	494	418
	収穫量（子実用）	t	7,763,000	7,709,000	7,600,000	7,452,000	7,227,000	6,109,000
3	10a 当たり収量	kg	539	535	527	517	502	423
	収穫量（子実用）	t	7,563,000	7,502,000	7,397,000	7,260,000	7,049,000	5,937,000
4	10a 当たり収量	kg	536	531	523	513	497	418
	収穫量（子実用）	t	7,269,000	7,204,000	7,095,000	6,956,000	6,746,000	5,663,000
5	10a 当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量（子実用）	t	7,165,000	7,122,000	7,050,000	6,957,000	6,807,000	6,076,000
6 （概数値）	10a 当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量（子実用）	t	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
	対前年比 （収穫量（子実用））	%	103	102	102	102	101	99

注：1 ふるい目幅別10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。  
2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、全国の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図2 水稻の全国農業地域・都道府県別作況指数  
 (農家等が使用しているふるい目幅ベース)



注：1 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する 10a 当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去 5 かに農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

## 【調査結果】

### 1 作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

#### (1) 水 稲

ア 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha増加）となった。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は125万9,000ha（同1万7,000ha増加）となった（表3参照）。

イ 全国の10 a 当たり収量は540kg（平年に比べ+3kg）と見込まれる。

これを地域別にみると、以下のとおりである。

北海道、東北及び関東・東山においては、5月以降、おおむね天候に恵まれ、全もみ数が平年以上に確保されたこと等から、北海道は592kg（平年に比べ+21kg）、東北は583kg（同+12kg）、関東・東山は545kg（同+6kg）となった。

北陸においては、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や9月下旬の大雨等の影響があったため、535kg（平年に比べ△3kg）となった。

東海、近畿、中国、四国及び九州においては、一部地域で6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足や8月以降の記録的な高温等の影響があったため、東海は489kg（平年に比べ△11kg）、近畿は507kg（同△2kg）、中国は512kg（同△7kg）、四国は481kg（同△1kg）、九州は489kg（同△11kg）となった。

沖縄県は、台風の影響もなく、おおむね天候に恵まれたことから、328kg（平年に比べ+16kg）が見込まれる。

ウ 以上の結果、収穫量（子実用）は734万5,000 t（前年産に比べ18万 t 増加）と見込まれる。このうち、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、679万2,000 t（同18万2,000 t 増加）と見込まれる（表3参照）。

#### (2) 陸 稲

令和6年産陸稲の作付面積（子実用）は320ha（前年産に比べ81ha減少）で、10 a 当たり収量は256kg（同48kg増加）となり、収穫量（子実用）は820 t（同15 t 減少）となった。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10a 当たり収量			収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較		実 数 ③=①×②	前年産との比較				
		対差	対比		対差	対比		対差	対比			
ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t		
全 国	1,359,000	15,000	101	540	3	7	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000	101
北 海 道	95,000	1,700	102	592	21	13	562,400	22,200	104	83,700	495,500	103
東 北	358,400	9,300	103	583	12	14	2,091,000	103,000	105	319,800	1,865,000	103
北 陸	197,000	△ 700	100	535	△ 3	22	1,053,000	38,000	104	175,800	938,800	99
関東・東山	248,000	8,500	104	545	6	1	1,352,000	50,000	104	235,000	1,282,000	102
東 海	86,600	△ 200	100	489	△ 11	△ 5	423,100	△ 5,600	99	83,400	407,500	98
近 畿	94,000	△ 700	99	507	△ 2	4	476,900	800	100	90,600	459,600	101
中 国	93,100	△ 900	99	512	△ 7	△ 2	476,900	△ 6,200	99	90,400	463,000	101
四 国	42,700	△ 400	99	481	△ 1	△ 1	205,200	△ 2,500	99	42,300	203,600	101
九 州	143,700	△ 1,600	99	489	△ 11	△ 8	703,000	△ 19,000	97	138,200	676,000	99
沖 縄	599	23	104	328	16	7	1,960	110	106	557	1,830	105

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。

2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 10a 当たり収量の平年との比較は、10a 当たり平年収量との比較である。

4 収穫量については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

6 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

## 2 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）等

令和6年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況は、当年産で最も多くの農家が使用していたふるい目幅である1.85mm以上の玄米の重量割合は96.6%と、直近5か年平均値と比べて0.4ポイント高くなっている。

表4 令和6年産ふるい目幅別重量分布状況

全 国 農業地域	区 分	計	単位：%					
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
全 国	重量割合	100.0	0.7	1.2	1.5	2.6	11.9	82.1
	平均値	100.0	0.7	1.3	1.8	2.7	13.9	79.6
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 2.0	2.5
北 海 道	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.2	2.2	10.7	84.3
	平均値	100.0	0.6	0.9	1.2	1.9	10.3	85.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.4	△ 0.8
東 北	重量割合	100.0	0.5	1.1	1.3	2.2	10.5	84.4
	平均値	100.0	0.5	1.1	1.4	2.2	11.9	82.9
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 1.4	1.5
北 陸	重量割合	100.0	0.9	1.3	1.5	2.8	13.2	80.3
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.3	2.3	12.7	82.1
	対平均差(ポイント)	0.0	0.3	0.3	0.2	0.5	0.5	△ 1.8
関東・東山	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.6	13.5	80.3
	平均値	100.0	0.8	1.3	1.8	2.9	16.8	76.4
	対平均差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 3.3	3.9
東 海	重量割合	100.0	0.6	1.1	1.5	2.1	8.9	85.8
	平均値	100.0	0.8	1.2	1.7	2.3	10.5	83.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.2	△ 1.6	2.3
近 畿	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.4	2.3	10.1	84.3
	平均値	100.0	0.9	1.5	1.9	2.7	13.2	79.8
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.4	△ 3.1	4.5
中 国	重量割合	100.0	0.5	0.9	1.1	1.8	8.5	87.2
	平均値	100.0	0.9	1.5	2.0	2.7	13.8	79.1
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.9	△ 0.9	△ 5.3	8.1
四 国	重量割合	100.0	0.8	1.1	1.5	2.4	11.6	82.6
	平均値	100.0	1.2	1.9	2.5	3.4	16.3	74.7
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.8	△ 1.0	△ 1.0	△ 4.7	7.9
九 州	重量割合	100.0	1.1	2.0	2.5	4.4	17.7	72.3
	平均値	100.0	1.3	2.5	3.1	4.7	21.1	67.3
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.6	△ 0.3	△ 3.4	5.0
沖 縄	重量割合	100.0	0.6	1.1	1.7	3.1	14.5	79.0
	平均値	100.0	0.7	1.4	1.8	2.8	13.8	79.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	0.3	0.7	△ 0.5

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表5 令和6年産ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）

全 国 農業地域	区 分	単位	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm
			以上	以上	以上	以上	以上	以上
全 国	10a 当たり収量	kg	540	536	530	522	508	443
	収穫量(子実用)	t	7,345,000	7,294,000	7,205,000	7,095,000	6,904,000	6,030,000
北 海 道	10a 当たり収量	kg	592	588	583	575	562	499
	収穫量(子実用)	t	562,400	559,000	553,400	546,700	534,300	474,100
東 北	10a 当たり収量	kg	583	580	574	566	553	492
	収穫量(子実用)	t	2,091,000	2,081,000	2,058,000	2,030,000	1,984,000	1,765,000
北 陸	10a 当たり収量	kg	535	530	523	515	500	430
	収穫量(子実用)	t	1,053,000	1,044,000	1,030,000	1,014,000	984,600	845,600
関東・東山	10a 当たり収量	kg	545	541	534	525	511	438
	収穫量(子実用)	t	1,352,000	1,341,000	1,325,000	1,303,000	1,268,000	1,086,000
東 海	10a 当たり収量	kg	489	486	481	473	463	420
	収穫量(子実用)	t	423,100	420,600	415,900	409,600	400,700	363,000
近 畿	10a 当たり収量	kg	507	503	497	490	479	427
	収穫量(子実用)	t	476,900	473,100	467,800	461,200	450,200	402,000
中 国	10a 当たり収量	kg	512	509	505	499	490	446
	収穫量(子実用)	t	476,900	474,500	470,200	465,000	456,400	415,900
四 国	10a 当たり収量	kg	481	477	472	465	453	397
	収穫量(子実用)	t	205,200	203,600	201,300	198,200	193,300	169,500
九 州	10a 当たり収量	kg	489	484	474	462	440	354
	収穫量(子実用)	t	703,000	695,300	681,200	663,600	632,700	508,300
沖 縄	10a 当たり収量	kg	328	326	322	317	307	259
	収穫量(子実用)	t	1,960	1,950	1,930	1,890	1,830	1,550

注：1 ふるい目幅別10a 当たり収量とは、全国又は全国農業地域別の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。  
 2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、全国又は全国農業地域別の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表6 令和6年産水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布  
 【令和6年産水稻作況標本（基準）筆農家からの間取り結果】

全 国 農業地域	計	単位：%					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
全 国	100.0	0.1	1.2	23.2	38.9	36.0	0.6
北 海 道	100.0	0.2	-	0.8	21.0	75.7	2.3
東 北	100.0	-	-	0.4	16.3	83.2	0.1
北 陸	100.0	-	-	1.0	32.6	65.3	1.1
関東・東山	100.0	0.3	3.3	41.2	53.3	1.7	0.2
東 海	100.0	0.3	0.6	23.6	58.1	17.1	0.3
近 畿	100.0	0.1	3.6	41.2	33.4	19.3	2.4
中 国	100.0	-	0.4	7.2	69.0	22.6	0.8
四 国	100.0	0.2	2.5	70.4	26.4	0.5	-
九 州	100.0	0.1	1.0	44.7	44.5	9.7	-
沖 縄	100.0	-	25.0	75.0	-	-	-

注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本（基準）筆農家を使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

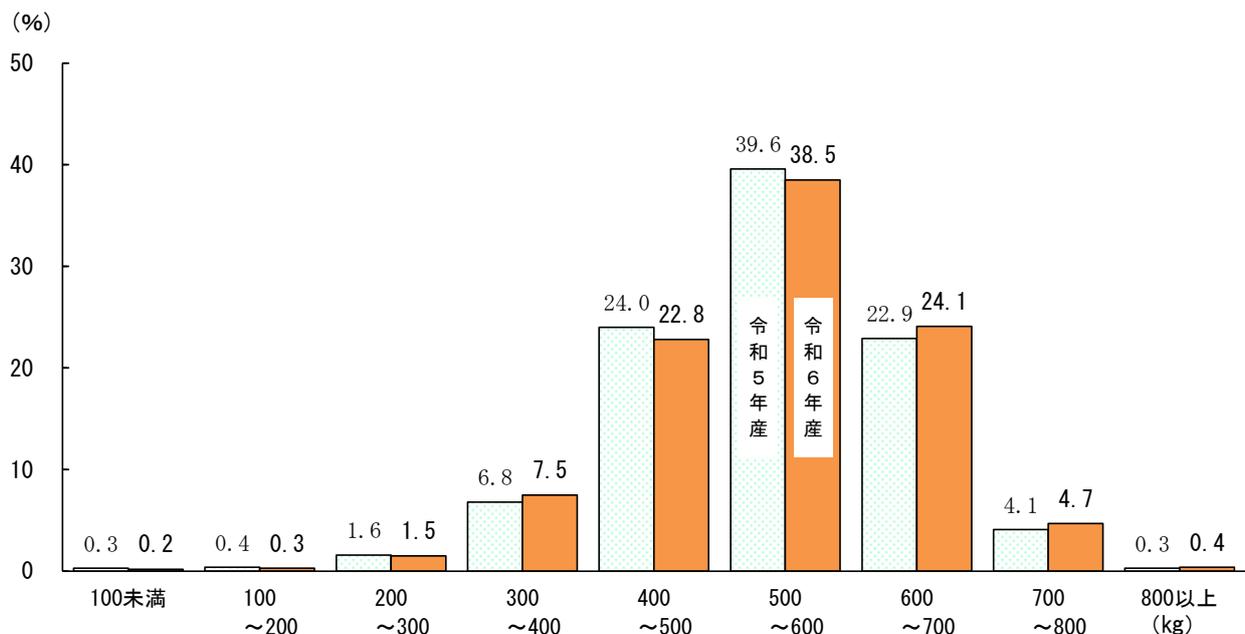
表7 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況

単位：%

全 国 農業地域	区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
全 国	筆数割合	100.0	0.2	0.3	1.5	7.5	22.8	38.5	24.1	4.7	0.4
	前 年 値	100.0	0.3	0.4	1.6	6.8	24.0	39.6	22.9	4.1	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	0.7	△ 1.2	△ 1.1	1.2	0.6	0.1
北 海 道	筆数割合	100.0	-	-	-	1.8	9.0	39.6	39.6	9.8	0.2
	前 年 値	100.0	-	-	0.3	1.0	9.8	45.0	38.8	4.8	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	-	-	△ 0.3	0.8	△ 0.8	△ 5.4	0.8	5.0	△ 0.1
東 北	筆数割合	100.0	0.1	0.1	1.0	2.0	9.5	35.2	41.1	10.4	0.6
	前 年 値	100.0	-	0.1	0.5	3.0	13.4	38.9	35.1	8.5	0.5
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.0	0.5	△ 1.0	△ 3.9	△ 3.7	6.0	1.9	0.1
北 陸	筆数割合	100.0	-	0.2	1.0	4.7	20.7	46.7	25.3	1.4	-
	前 年 値	100.0	0.4	1.2	2.0	6.8	26.4	39.0	21.2	3.0	-
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 1.0	△ 1.0	△ 2.1	△ 5.7	7.7	4.1	△ 1.6	-
関東・東山	筆数割合	100.0	-	0.3	0.8	5.7	20.4	39.2	26.0	6.9	0.7
	前 年 値	100.0	0.1	-	0.8	5.2	22.0	39.4	25.2	6.7	0.6
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.3	0.0	0.5	△ 1.6	△ 0.2	0.8	0.2	0.1
東 海	筆数割合	100.0	-	0.5	1.7	13.0	34.7	35.7	13.0	1.4	-
	前 年 値	100.0	0.1	0.9	2.6	8.8	32.2	37.9	16.2	1.3	-
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.9	4.2	2.5	△ 2.2	△ 3.2	0.1	-
近 畿	筆数割合	100.0	0.1	0.4	1.5	9.1	28.0	43.5	14.8	2.1	0.5
	前 年 値	100.0	0.2	0.2	2.2	8.3	30.6	42.6	14.2	1.7	-
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.1	0.2	△ 0.7	0.8	△ 2.6	0.9	0.6	0.4	0.5
中 国	筆数割合	100.0	0.7	1.0	4.0	10.5	22.2	35.0	21.0	4.8	0.8
	前 年 値	100.0	0.3	0.4	1.9	9.1	27.3	37.7	19.5	3.7	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.4	0.6	2.1	1.4	△ 5.1	△ 2.7	1.5	1.1	0.7
四 国	筆数割合	100.0	-	0.4	2.7	15.3	36.3	32.4	12.7	0.2	-
	前 年 値	100.0	0.5	0.7	3.6	13.8	33.3	35.8	11.0	1.0	0.3
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.9	1.5	3.0	△ 3.4	1.7	△ 0.8	△ 0.3
九 州	筆数割合	100.0	0.5	0.3	1.9	11.9	34.7	38.1	11.6	0.9	0.1
	前 年 値	100.0	1.0	0.4	2.5	9.4	30.0	40.8	15.2	0.6	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.5	△ 0.1	△ 0.6	2.5	4.7	△ 2.7	△ 3.6	0.3	0.0

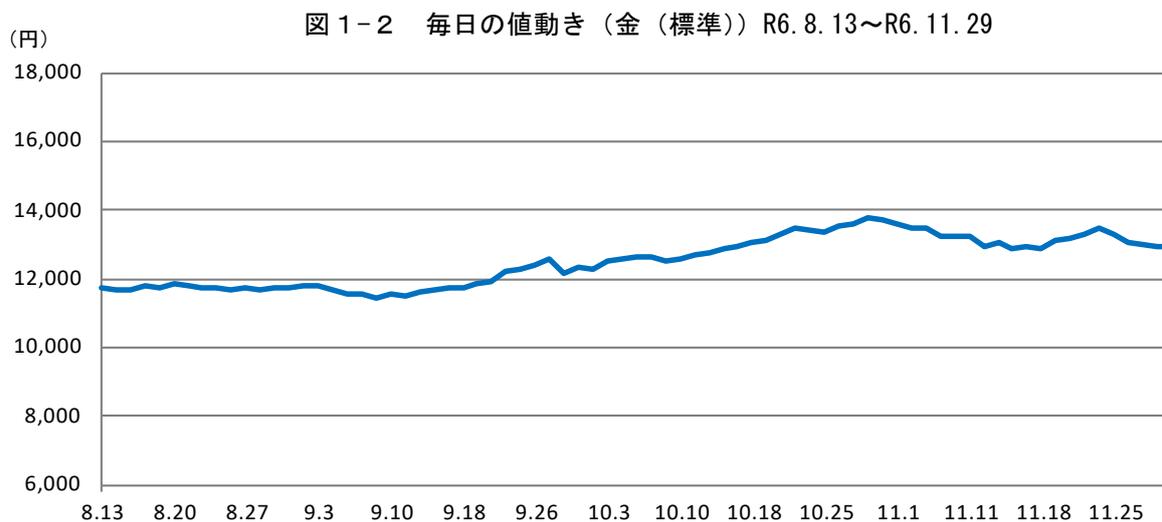
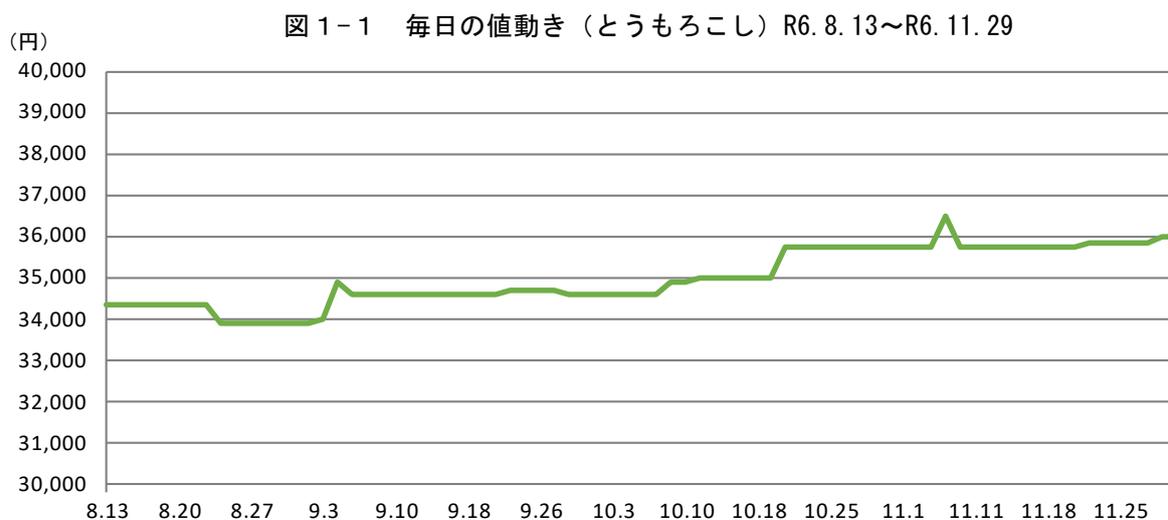
注：1 10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。  
 2 沖縄については、作況標本筆を設置していないことから、調査結果を表記していない。

図3 令和6年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（全国）



## (2) とうもろこし及び金の動向（大阪取引所）

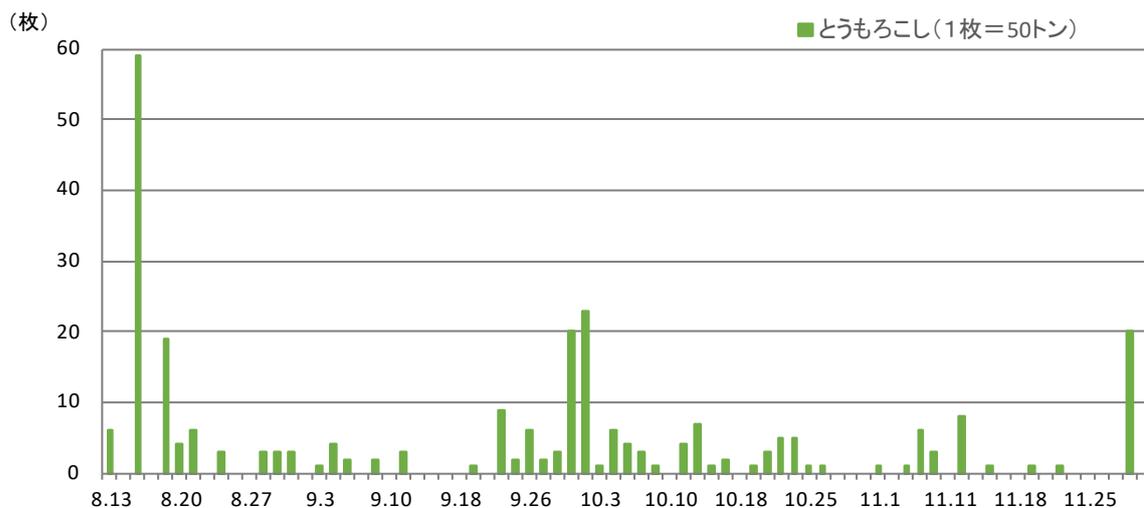
### ア 取引価格



- 注：1 令和6年8月13日から令和6年11月29日までの期先限月の清算数値（帳入値）。  
 2 大阪取引所HP商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。  
 3 価格はとうもろこしは1トン、金（標準）は1g。

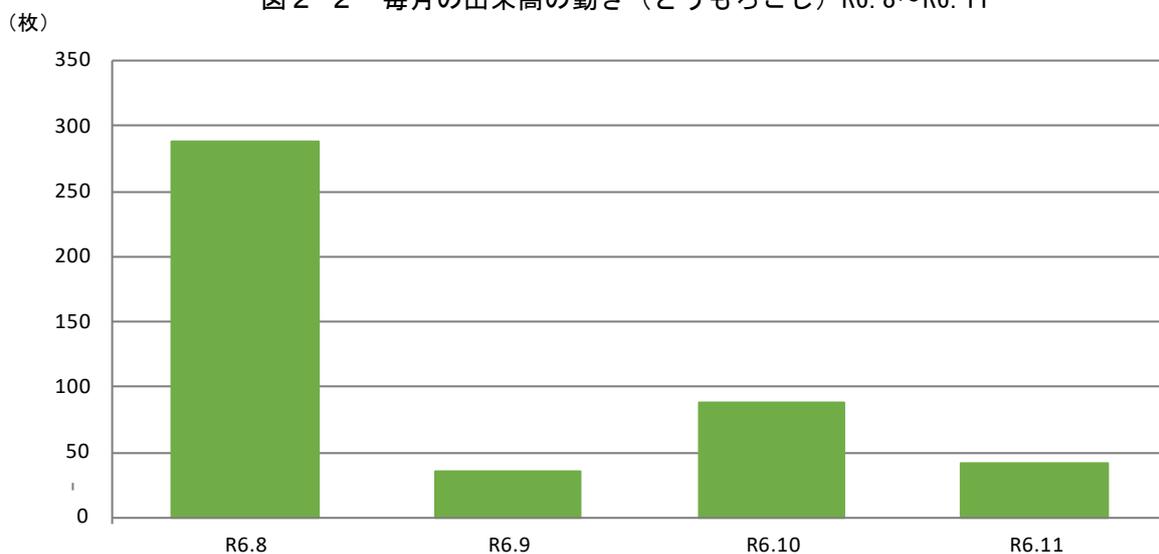
## イ 出来高

図 2-1 毎日の出来高の動き（とうもろこし）R6. 8. 13～R6. 11. 29



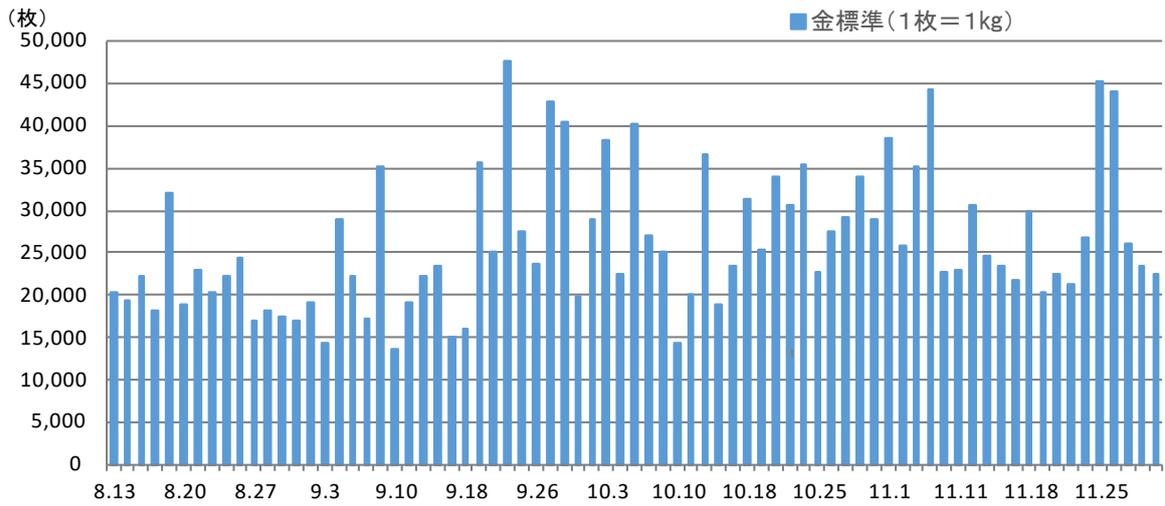
注： 1 令和 6 年 8 月 13 日から令和 6 年 11 月 29 日までのとうもろこしの毎日の出来高。  
 2 大阪取引所 H P 商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。

図 2-2 毎月の出来高の動き（とうもろこし）R6. 8～R6. 11



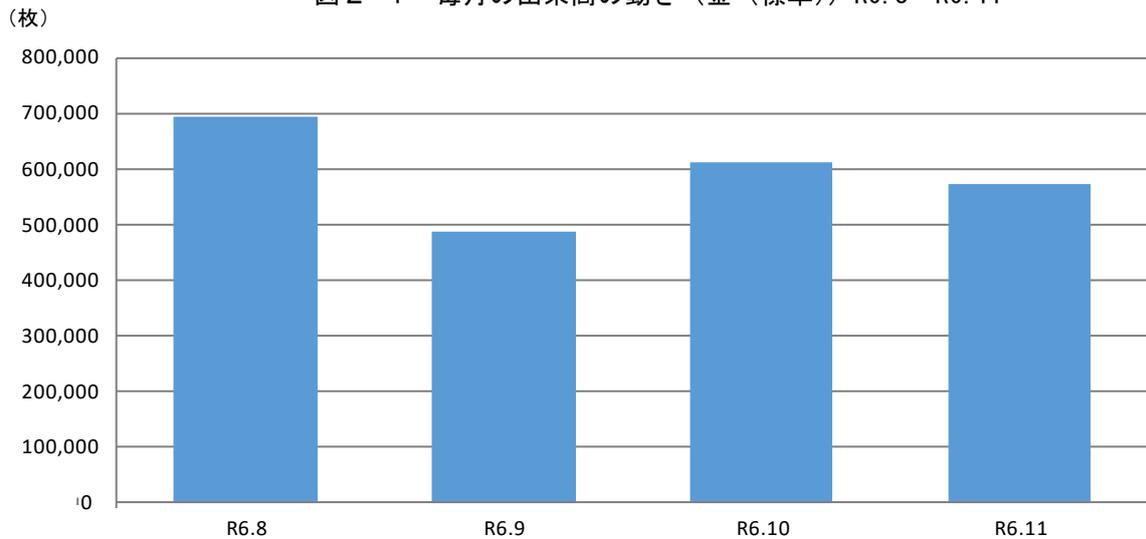
注： 1 令和 6 年 8 月から令和 6 年 11 月までの月間出来高合計。  
 2 大阪取引所 H P 商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。

図2-3 毎日の出来高の動き（金（標準））R6.8.13~R6.11.29



注：1 令和6年8月13日から令和6年11月29日までの金（標準）の毎日の出来高。  
 2 大阪取引所HP商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。

図2-4 毎月の出来高の動き（金（標準））R6.8~R6.11



注：1 令和6年8月から令和6年11月までの金標準の月間出来高合計。  
 2 大阪取引所HP商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。

## ウ 取組高

図3-1 取組高（とうもろこし）R6.8～R6.11

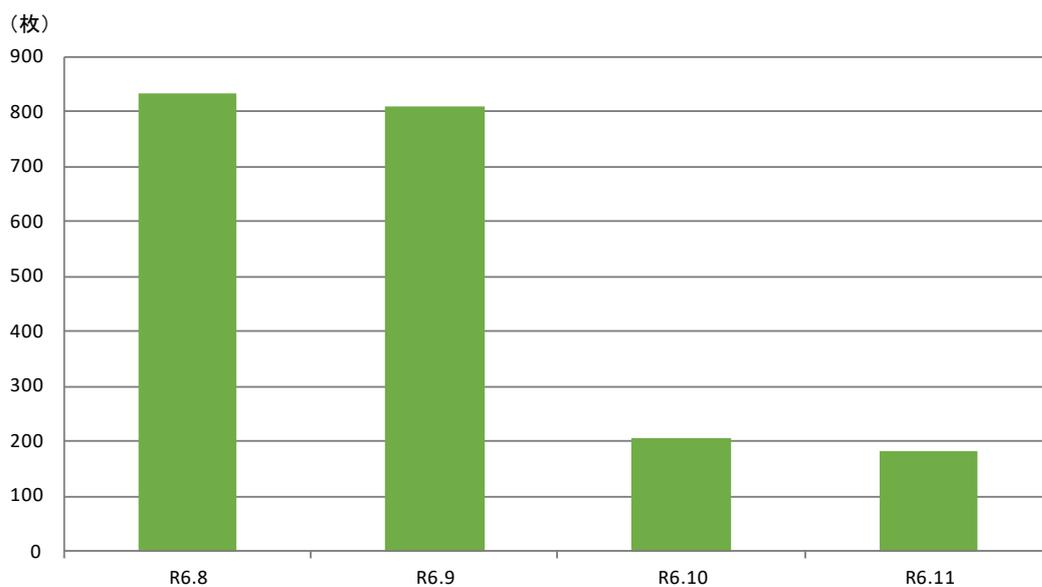
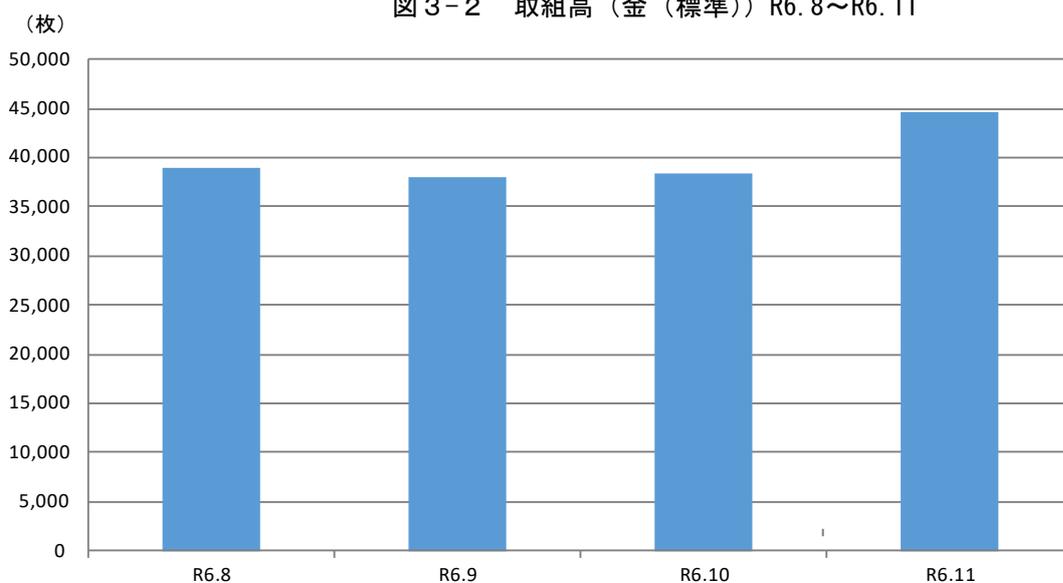


図3-2 取組高（金（標準））R6.8～R6.11



- 注：1 令和6年8月から令和6年11月までの各月末時点での取組高合計。  
2 大阪取引所HP商品先物価格情報をもとに農林水産省において作成。  
3 取組高1枚当たりの取引単位は、とうもろこしは50トン、金（標準）は1kg。



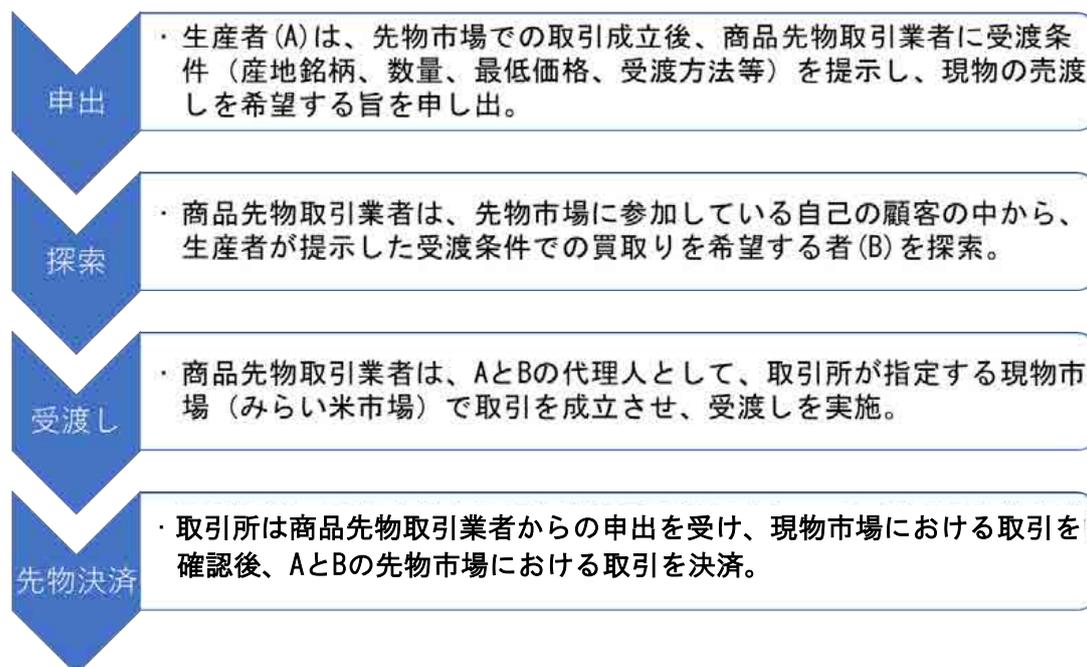
## 3 参考資料



## (1) 現物市場と先物市場（堂島取引所）との連携について

現物の受渡しを希望する当業者は、先物市場（堂島取引所）での取引成立後、商品先物取引業者を通じて堂島取引所が指定する現物市場（みらい米市場）で売買を行うことにより、現物の受渡しを行うとともに、先物市場での取引を結了させることができる（なお、対応できる商品先物取引業者については堂島取引所に御照会ください。）。

### ア 生産者が現物市場での受渡しを行う場合の流れ



### イ みらい米市場の概要

趣旨	・産地や品種・銘柄だけでない米の品質や付加価値を評価して取引できるマーケットを創出することを目的として開設（R5年10月）
仕組み	・登録を受けた生産者、集荷業者、卸売業者等が参加者となってオンラインで ① オークション方式 ② 買い手からのオーダー方式 で米の売買を実施
登録要件	・販売者の登録要件 ①米の生産者、ならびに生産者グループ、協同組合、企業等で、米の生産を行っていることが当社の要求する客観的な資料等で確認できる者 ②業務を安定的に行う体制が整っていること ③主要食糧の需給および価格の安定に関する法律（以下「食糧法」という。）第47条の規定に基づき米穀の出荷または販売の事業を行おうとする者として農林水産大臣に届出を行い受理された者 ④その他、米の販売事業者として適正であると当社が判断した者  ・購買者の登録要件 ①食糧法第47条の規定に基づき米穀の出荷または販売の事業を行おうとする者として農林水産大臣に届出を行い受理された者 ②業務を安定的に行う体制が整っていること ③年間10トン以上の米穀の取扱いがあり、与信等によって信頼性が確認された者 ④その他、米の購買事業者として適正であると当社が判断した者
利用料(売り手のみ、買い手無料)	売買数量が10トン未満の場合、売買代金(税込)の1%(税別) 売買数量が10トン以上の場合、売買代金(税込)の0.5%(税別)
取引単位	販売者が設定可能（30kg/袋～）
問合わせ先	電話番号：080-9438-2850 メールアドレス：support@rice-market.com URL：https://rice-market.jp/what-is-rmt

## (2) 米先物取引に係るこれまでの主な経過

- 平成17年12月9日 ・東京穀物商品取引所が米の試験上場を認可申請
- 平成17年12月16日 ・関西商品取引所が米の試験上場を認可申請
- 平成18年4月12日 ・米の試験上場を不認可
- 平成23年3月8日 ・東京穀物商品取引所及び関西商品取引所が米の試験上場を認可申請
- 平成23年7月1日 ・米の試験上場を認可
- 平成23年8月8日 ・取引開始
- 平成24年5月29日 ・東京穀物商品取引所が農産物市場の移管の方針を公表  
平成25年2月を目途に、大豆等を東京工業品取引所に、米穀を関西商品取引所に移管
- 平成24年12月14日 ・関西商品取引所から大阪堂島商品取引所への名称変更を認可（平成25年2月12日に変更）
- 平成25年2月12日 ・国内の3つの商品取引所を2つの商品取引所に再編  
東京穀物商品取引所は2月8日に農産物市場の立会を停止し、平成24年5月公表の再編方針に基づき、大豆等を東京商品取引所（旧東京工業品取引所）に、米穀を大阪堂島商品取引所（旧関西商品取引所）に移管
- 平成25年7月8日 ・大阪堂島商品取引所が試験上場の2年間の延長を申請
- 平成25年8月7日 ・米の試験上場の2年間の延長を認可
- 平成26年4月21日 ・大阪堂島商品取引所が東京コメ（平成26年10月限以降）について、受渡供用品を農産物検査法に基づく検査規格水稻うるち玄米合格品の全てに拡大するとともに、取引単位を受渡単位と同じ1枚12トンに拡大
- 平成27年4月13日 ・大阪堂島商品取引所が大阪コメ（平成27年10月限以降）について、標準品を石川及び福井コシヒカリから滋賀及び三重コシヒカリに変更
- 平成27年4月21日 ・大阪堂島商品取引所が東京コメ（平成27年10月限以降）について、標準品を茨城、栃木及び千葉コシヒカリから栃木あさひの夢、群馬あさひの夢、埼玉彩のかがやき、千葉ふさおとめ及び千葉ふさこがねに変更
- 平成27年7月21日 ・大阪堂島商品取引所が試験上場の2年間の再延長を申請
- 平成27年8月6日 ・米の試験上場の2年間の再延長を認可
- 平成28年10月21日 ・大阪堂島商品取引所が標準品に新潟コシヒカリを追加
- 平成29年7月11日 ・大阪堂島商品取引所が本上場を申請
- 平成29年8月4日 ・大阪堂島商品取引所が本上場の申請を取り下げ、試験上場の2年間の再々延長を申請
- 平成29年8月7日 ・米の試験上場の2年間の再々延長を認可
- 平成30年10月15日 ・大阪堂島商品取引所が取引方法を板寄せ方式からザラバ方式に変更
- 平成30年10月22日 ・大阪堂島商品取引所が標準品を大阪コメから秋田こまちに変更
- 平成31年3月8日 ・大阪コメの取引を終了
- 令和元年7月16日 ・大阪堂島商品取引所が本上場を申請
- 令和元年7月29日 ・大阪堂島商品取引所が本上場の申請を取り下げ、試験上場の2年間の再々延長を申請
- 令和元年8月7日 ・米の試験上場の2年間の再々々延長を認可
- 令和2年4月21日 ・大阪堂島商品取引所が秋田こま치의取引単位を1.02トンに小口化し、標準品に宮城ひとめぼれを追加
- 令和3年2月19日 ・取引単位が12.24トンの秋田こま치의取引を終了

- 令和3年3月19日 ・ 会員制組織から株式会社への大阪堂島商品取引所の組織変更を認可（令和3年4月1日に変更）
- 令和3年3月22日 ・ 大阪堂島商品取引所が標準品に新潟コシヒカリEXWを追加
- 令和3年7月16日 ・ 大阪堂島商品取引所が本上場を申請
- 令和3年8月6日 ・ 米の本上場を不認可
- 令和3年8月7日 ・ 米の試験上場期間の終了
- 令和3年8月10日 ・ 大阪堂島商品取引所から堂島取引所へ名称変更
- 令和6年2月21日 ・ 堂島取引所が米穀指数の本上場を申請
- 令和6年6月21日 ・ 米穀指数の本上場を認可
- 令和6年8月13日 ・ 米穀指数の取引開始

### 【商品先物取引のリスクについて】

商品先物取引は、相場の変動幅が小さくても大きな額の利益又は損失が生ずるハイリスク・ハイリターンの取引であり、また、商品先物市場の価格変動が予測に反して推移した場合には損失が発生する可能性や預託した取引証拠金等の全額を上回る損失が発生するおそれがあります。

商品先物取引を行う場合には、これらの点を含め、取引の仕組みやリスクについて十分に理解した上で、許可を受けた商品先物取引業者又は登録を受けた商品先物取引仲介業者を通じて行っていただきますようご注意願います。

この他、商品先物取引に関する注意点等については、農林水産省のホームページなどをご覧ください。

【農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 商品取引グループ HP】

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/syoutori/index.html>

【堂島取引所 HP】

<http://www.odex.co.jp/index.html>

【日本取引所グループ HP（大阪取引所・東京商品取引所）】

<https://www.jpx.co.jp/index.html>

【日本商品先物取引協会 HP】

<https://www.nisshokyo.or.jp/index.html>

【本レポートに関するお問い合わせ先】

農林水産省大臣官房新事業・食品産業部  
商品取引グループ

代表：03-3502-8111（内線 4177）

ダイヤル：03-6744-1860